

レーザーセンシング学会 レーザーセンシング学会誌執筆要領  
レーザーセンシング学会誌編集委員会

令和3年4月1日制定・施行

1. 言語

日本語または英語を使用すること。

2. 原稿の作成と提出

- ① 本学会ホームページよりA4規格のテンプレートをダウンロードし、テンプレートを参考に作成する。
- ② テキストはWord形式のファイルを提出すること。査読者の便宜を図るため、ページ番号、本文に行番号を付けること。
- ③ 図はtif, jpg, PDF等の形式のファイルを提出すること、画像の場合は300dpi程度の高解像度で低圧縮又は無圧縮のファイルを提出すること。
- ④ 表はPDF形式のファイルを提出すること。

3. 論文等の長さ(目安)

- ① 論文: 15,000字~30,000字
  - ② 総説: 20,000字以内
  - ③ 小論文: 15,000字以内
  - ④ 解説: 20,000字以内
  - ⑤ 図表に対応する文字カウント数は、標準的な大きさ、縦横比の図の場合で400字/個程度となる。
  - ⑥ その他は内容を十分に伝えることの出来る最適の長さとする。
  - ⑦ なお、超過分の印刷については実費を徴収する。但し、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。
- \* 刷り上がり目安としては、2500字程度/ページとなる。

4. 論文等の構成

論文等の原稿は、次の順序で作成すること。

- ① 論文題名(和文)
  - ② 論文題名(英文)
  - ③ 著者名(和文)(連絡所者に\*を付すこと)
  - ④ 所属および住所(和文)(英文原稿の場合は不要)
  - ⑤ 著者名(英文)(連絡所者に\*を付すこと)
  - ⑥ 所属および住所(英文)
  - ⑦ 概要(英文、150語以内)(論文・小論文・技術報告・総説(レビュー)は必須。その他の原稿は任意)
  - ⑧ キーワード(4~5ワード)
  - ⑨ キーワード(英文)(4~5ワード)
  - ⑩ 本文(和文)
  - ⑪ 謝辞(和文)
  - ⑫ 引用文献
  - ⑬ 付録(和文)
  - ⑭ 著者紹介(和文)(各著者300字以内)
    - ・著者紹介用写真は採録決定後に提出すること。
    - ・写真の掲載は必須ではない。
  - ⑮ すべての図、写真、表
    - ・図、写真、表は本文原稿中に挿入せず、別のシートとして作成すること。ただし、文中に、図表の挿入箇所については記載すること。
    - ・脚注は原則として英語とする。
- なお英文原稿の場合は、上記の構成で、⑪~⑬および⑮を英文にすること。

## 5. 用字と用語

- ① 特殊な用語や略語が多用される場合は、参考文献の次に用語・略語の説明をまとめることが望ましい。
- ② 句読点は、句点「。」と読点「,」を用いず、「,」、「,」を用いる。それぞれ**全角**を用いること。(なお、参考文献リストおよび英文の場合は、半角の「,」、「,」とし、その後に単語が続く場合は、半角スペースをひとつ入れること。詳細は付録参照)

## 6. 見出しについて

- ① 大見出し“1.”など左つめ
  - ② 中見出し“1.1”など 左つめ
  - ③ 小見出し“1.1.1”など左つめ
- これより下位のレベルは、著者の任意とする。

## 7. 図、写真、表

- ① 全ての図、写真、表は、本文中で引用すること。
- ② おおよその図表挿入位置を、本文中に、たとえば  
[Fig. 1]  
のように、明記すること。
- ③ 図表の中の用語および説明は、原則として英語を用いること。
- ④ 図、写真、表は、論文の最後にまとめること。
- ⑤ 図表の説明  
(例1)表および図(カラーを含んで本文中に挿入する場合)  
表のとき:Table 1、Table 2、……、Table 10、  
図または写真のとき:Fig. 1、Fig. 2、……、Fig. 10  
カラー写真等で、本文中ではなく論文最後にまとめて掲載する場合:  
Plate1、Plate 2、……、Plate 10  
(例2)文章中の表現……をFig. 1、Table 1およびPlate 1に示す。  
Fig. 1 Concept of laser sensing systems.  
Table 1 Summary of space-based active sensors.

## 8. 引用文献

- ① 引用文献の範囲:原則として公開出版物の範囲に留めること。
- ② 引用の仕方  
本文中の該当する箇所に半角で“1)”等の上つき番号を出現順に付けて引用すること。
- ③ 引用文献リストの書き方  
引用文献リストは付録の形式を参考にして作成すること。著者が複数の場合も、原則として全著者の氏名(英語の場合は氏とイニシャル)を記入すること。英文論文タイトル中の単語については、文頭および固有 名称などで必要な場合以外は小文字を使用すること。
- ④ 雑誌名の略記  
通常、学術雑誌名は(特に英文雑誌などでは)かなり長いので、雑誌名の理解を妨げない範囲で略記を行なってよい。また編集段階において、学会側で略記形式に変更することがある。
- ⑤ 引用文献リストの書き方
- ⑥ 査読者が入手しにくい引用文献は、編集委員会の判断でコピーなどの提出を求めることがある。
- ⑦ ウェブサイトを引用する場合は、最終アクセス日付を(2020.8.1)のように記載すること。

## 9. 他誌から本誌に引用する場合の注意

- ① 引用する文献の著作権に十分注意すること。
- ② 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、著者の責任で事前にその著者および出版社の了承を得ること。

## 付録 引用文献リストの書き方 (ガイドライン)

### 1. 雑誌

- 1) 著者名: 標題, 雑誌名, 巻(号), .をつけて始め一終りのページ, 年(西暦).
- 2) 東京太郎, 大阪次郎: レーザセンシング学会誌の書き方, レーザセンシング学会誌, 18(1), 20-27, 2018.
- 3) T. Tokyo and J. Osaka: How to write LRSJ, J. Laser Radar Sens. Soc. Japan, 18(1), 20-27, 2018.

### 2. 著書、編書

- 1) (編)著者名: 書名, 発行所, 発行都市名, 発行年(西暦).
- 2) 東京太郎(編): レーザセンシング技術辞典, レーザセンシング出版, 東京, 2018.
- 3) T. Tokyo (ed.): Handbook of Laser Sensing, LRSJ Publ. Co., Tokyo, 2018.

### 3. 著書の一部を引用する場合

- 1) T. Tokyo and J. Osaka: How to write LRSJ, J. Laser Radar Sens. Soc. Japan, 18(1), 20-27, 2018.
- 2) 著者名: 表題, 書名, 編者名, 章番号をつけて始め一終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年(西暦).
- 3) 大阪次郎: レーザセンサ, レーザセンシング技術辞典, レーザセンシング出版, 東京, 2018.
- 4) J. Osaka: Basic of Laser Sensing Handbook, T. Tokyo (ed.), Chap.2, LRSJ Publ. Co., Tokyo, 2018.

### 4. 国際会議

- 1) 著者名: 表題, 会議名, 都市名, 国名, 論文番号, 始め一終りのページ, 月(英語)年(西暦).
- 2) T. Tokyo, S. Nagoya and J. Osaka: How to study laser sensing, Proc. Inter. Symp. on Laser Radar, Tokyo, Japan, B-11, 3-13, Feb. 2018.

### 5. 国内大会、研究会論文集

- 1) 著者名: 標題, 学会論文集名, 分冊または号, 論文番号, .をつけて始め一終りのページ, 月(英語)年(西暦).
- 2) 東京太郎, 大阪次郎: レーザセンシングデータの表現, 第40回レーザセンシングシンポジウム, A-1, .4-5, Feb. 2018.

### 6. インターネットサイトの引用:

- 1) 著者名: 標題, <https://laser-sensing.jp/gakkaishi.html> (Accessed 2019.12.19)  
(著者不明の場合は、和文では「著者不明」、英文では「Anonymous」とする)

### 7. 日本語での著者名に関する注意事項

姓と名の記述は、次の例にならうこと: 東京太郎, 鈴木正, 泉\_宏治, 林\_誠, 森信一郎, 山田洋一郎

## (テンプレート例)

ここに日本語タイトルを書いて下さい

English title must be written in this style

光 太郎<sup>\*1</sup>, 非線形 次郎<sup>2</sup>, 固体結晶 三郎<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup>レーザーセンシング学会 (〒123-1234 住所)

<sup>2</sup>所属 (〒123-1234 住所)

<sup>3</sup>所属 (〒123-1234 住所)

Taro Hikar<sup>\*1</sup>, Jiro Hisenkei<sup>2</sup>, and Saburou Kotaikesshou<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup>Laser Radar Society of Japan, 1-1 Address, Tokyo 123-1234

<sup>2</sup>Laser Radar Society of Japan, 1-1 Address, Tokyo 123-1234

<sup>3</sup>Laser Radar Society of Japan, 1-1 Address, Tokyo 123-1234

( Received XXXXXXXXXXX ) \* 事務局記入箇所につき、このまま残して下さい

Author must place the abstract here. Abstracts and keywords are necessary for original paper and review paper. The abstract should not exceed 150 words and keywords (in noun forms) should not exceed 5 words.

キーワード: レーザー, 非線形光学, 結晶

**Key Words:** Laser, Nonlinear optics, Crystal

### 1. はじめに

原稿作成に際しては以下の注意事項に従ってください。ただし、このテンプレートで作成した原稿がそのまま印刷されるわけではありません。

### 2. 論文題目・著者名・所属

#### 2.1 タイトル

論文題目は論文の内容を的確かつ簡潔に表すように記述して下さい。文字数は、和文:35字以内、英文:15ワード以内とし、略語は使用しないで下さい。やむを得ず長くなる場合は、刷り上がり各項のフッタに使用する省略題目を併記して下さい。和文表題には・, /を使用しないで下さい。表題中のハイフンの後は大文字として下さい。英文表題は先頭文字のみ大文字として下さい。

#### 2.2 著者名

和文著者名では姓と名の間は半角スペースを入れてください。但し、姓と名が1文字の場合は全角スペースを入れてください。この姓と名のスペースは本文中、参考文献でも同様にして下さい。英文著者名では姓・名ともに先頭文字のみ大文字として下さい。

#### 2.3 所属

著者が複数の場合、和英共に氏名の後にカンマを入れて下さい。英文では著者が多数の場合、最後の著者の前に“and”を入れ、著者が2名の場合はその上でカンマを削除して下さい。著者の所属が異なる場合は、著者名の右肩に<sup>1</sup>, <sup>2</sup>, <sup>3</sup>のように数字を付けて区別して下さい。また、研究場所が現在の所属と異なる場合は、現所属も併記して下さい。(現所属は脚注として記載して下さい。)

### 3. 要旨・キーワード

掲載区分が、原著論文および解説の場合は、150ワード以内の英文要旨 (Abstract) と5個以内の英文キーワード (名詞形) を記述して下さい。また、英文要旨は、英文題目と共に必ずネイティブチェックを受けて下さい。

## (テンプレート例)

47 なお、投稿者から希望があれば、編集委員会からネイティブチェック業者に依頼します(有料、タイトルとアブス  
48 トラクトのみの場合は、3,000円程度)。

49

### 50 4. 文章に関わる注意事項

#### 51 4.1 本文

52 原則として常用漢字新仮名づかいを用いて下さい。術語はレーザセンシング学会および文部省で制定され  
53 たものを用いることが望ましいです。人名、日本語に十分定着していない術語などは原則として原綴で書いて  
54 下さい。欧語の原綴を日本語に混用する時は出来るだけ英語を用い、英、仏、独、露語などの混用を避けて下  
55 さい。

56 本文の文章は、指定がない限り和文はMS明朝、英文はtimesなどの明朝体として下さい。読点、句読点はピ  
57 リオド(和文:全角ピリオド)、カンマ(和文:全角カンマ)に統一して下さい。ただしスラッシュ(/)、%は和文中であ  
58 っても半角を用いて下さい。

59

#### 60 4.2 見出し

61 論文項目の番号付けは、大項目を 1, 2, …として中央揃えとし、中項目を 1.1, 1.2, …, 小項目を 1.1.1,  
62 1.1.2, …として左詰めとして下さい。

63

#### 64 4.3 記号

65 単位は立体記号とし、同一論文中で表記を統一して下さい。また原則としてSI単位系を用いて下さい。数値と  
66 単位の間は、和英文とも半角スペースとして下さい。ギリシャ文字は指定のない限りsymbol書体に統一して下  
67 さい。ただし、 $\Gamma$ (ガンマ)、 $\Phi$ (ファイ)、 $\Sigma$ (シグマ)、及び単位の $\mu$ (マイクロ)、 $\Omega$ (オメガ)等は立体として下さい。

68 略語スペルアウトの形式は、フルスペル(略語)、和文(フルスペル:略語)を推奨します(例:Chirped Pulse  
69 Amplification (CPA)、チャープパルス増幅(Chirped Pulse Amplification:CPA))。

70

#### 71 4.4 数式

72 数式は数式専用のソフトを利用して作成して下さい。変数(物理量)はイタリックとし、関数を表す文字(sin, cos  
73 等)は立体として下さい。数式は通し番号をつけ、長い時は圧縮せずに複数行にして下さい。文中ではセンタリ  
74 ングですが、複数行に渡る場合は全体をセンタリングして下さい。

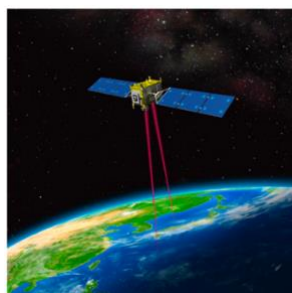
75 (例)屈折率 $n$ は次のように表せる。

$$76 \quad n(x) \cong n_{\infty} + \frac{c}{2\pi\nu_0} \left\{ \frac{\Delta\nu_D}{2(\ln 2)^{1/2}} x + \frac{G}{\sigma} \phi'(0, y/\sigma) \exp \left\{ -\pi^{1/2} (y/s) (I_t/I_s) \right\} \right\} \quad (1)$$

77

### 78 5. 図、写真および表

78 図表は原則として図表ソフトで作成し、表題、説明文および挿入文字は全て英文を使用して下さい。文字フォ  
79 ントは、図(英文)はゴシック系(Helvetica, Arial)、表はTimes、ギリシャ文字はSymbolの使用を推奨します。図  
80 中の用語サイズは印刷原稿で1.5 mm以上になるように注意して下さい。グラフ中には原則として縦横罫を入れ  
81 ず。表は横罫および天地の双柱罫のみとし、縦罫は入れないでください。他の文献から引用した場合は、説明  
82 文の右肩に引用文献番号を記載して下さい。



83

## (テンプレート例)

84

Fig. 1 Image of future Japanese space-based DWL. ©TMU

85

Table 1 Specifications of future Japanese space-based CDWL and observation requirements.

Attribution	Concept	
Altitude (km)	<300	
Off-nadir angle (deg)	35	
Laser transmitter	Optical fiber	Solid-state
Wavelength (μm)	1.5	2
Number of looks	1 or 2	
Pulse repetition rate (Hz)	150	30 x 2
Energy per pulse (mJ)	50	90
Telescope diameter (m)	0.6	
Telescope type	Off-axis	
Detector	InGaAs PD	
Target horizontal resolution (km)	50	
Target vertical resolution (km)	(Vector wind error (m/s))	
Altitude 0-3 (km)	0.5	1
Altitude 3-8 (km)	1	2
Altitude 8-20 (km)	2	4

86

図(写真)は(モノクロではなく)カラーを推奨します.カラーにするための掲載費用はかかりません.

87

88

図番号は本文中で参照する際は, 文頭ではFigure+数字を用い, 文中ではFig.+数字も可とします. また表番号はTable+数字を用いて下さい. グラフの縦軸, 横軸は値と単位を明記し, 単位の表記は(nm)のように, (単位)として下さい. ただしArbitrary unitは“arb. unit”として下さい(“a. u.”はatomic unit). 図中の文字は先頭のみ大文字とし, 値と単位の略語の間には半角スペースを入れて下さい(例 10 nm, 10 fs, 10 V). ただし, 値と単位の記号の間にはスペースは入れないで下さい(例 10°, 10°C, \$10).

89

90

91

92

93

94

### 6. 脚注

95

脚注は, 引用箇所(文)の右肩に<sup>†1</sup>, <sup>†2</sup>, <sup>†3</sup>...と示し, その項の下欄に説明文を記載して下さい. なお, 長期間の参照に耐えないカタログ, ホームページURL等は脚注として下さい.

96

97

98

### 謝辞

99

謝辞が必要でない場合は削除して下さい.

100

101

### 引用文献

102

原則として以下の形式で記述して下さい. 参考文献は通し番号をつけ, 本文の末尾に一括して記述して下さい. 本文中では引用箇所(文)の右肩に<sup>1)</sup>, <sup>1,2)</sup>, <sup>1-5)</sup>のように番号を記入して下さい.

103

104

#### ● 雑誌の場合

105

著者: タイトル 誌名 巻数(発行年)[No. 号数]\*項数.

106

#### ● 書籍の場合

107

著者: 書名 ([シリーズ名 巻数, ed. 編集者])\* \* 出版社, 出版地, 発行年)p. 項数.

108

\* 毎号項の改まる雑誌の場合に記述する.

109

\*\* シリーズ物の場合に記述する.

110

注1) 著者は全員の氏名を記述する, 但し 10 名を超える場合, 11 番目以降の省略(et al.)を認める. 2 名以上の場合はコンマで区切る. ただし, 欧文では, "A and B", "A, B, and C"のように"and"を挿入する.

111

注2) 論文等のタイトルを省略してはならない.

112

注3) 書名(含: プロシーディング他の単行本に準ずるもの)はイタリック体とする.

113

注4) 雑誌の巻数は太字(ボールド)とする.

114

参考文献に記載例を示すが, それぞれ欧文雑誌<sup>1)</sup>, 欧文単行本<sup>2)</sup>, 欧文単行本(編集された本の一部を引用する場合)<sup>3)</sup>, 欧文proceedings<sup>4)</sup>, 和文雑誌(日本語投稿の場合)<sup>5)</sup>, 和文雑誌(英語投稿の場合)<sup>6)</sup>, 和文単行本<sup>7)</sup>の例である.

115

116

117

118

1) 東京太郎, 大阪次郎: レーザセンシング学会誌の書き方, レーザセンシング学会誌, 18(1), 20-27, 2018.

2) T. Tokyo and J. Osaka: How to write LRSJ, J. Laser Radar Sens. Soc. Japan, 18(1), 20-27, 2018.

119

120

## (テンプレート例)

- 121 3) 東京太郎(編):レーザセンシング技術辞典, レーザセンシング出版, 東京, 2018.  
122 4) T. Tokyo (ed.): Handbook of Laser Sensing, LRSJ Publ. Co., Tokyo, 2018.  
123 5) T. Tokyo and J. Osaka: How to write LSSJ, J. Laser Radar Sens. Soc. Japan, 18(1), 20-27, 2018.  
124 6) 大阪次郎:レーザセンサ, レーザセンシング技術辞典, レーザセンシング出版, 東京, 2018.  
125 7) J. Osaka: Basic of Laser Sensing Handbook, T. Tokyo (ed.), Chap.2, LRSJ Publ. Co., Tokyo, 2018.  
126 8) T. Tokyo, S. Nagoya, and J. Osaka: How to study laser sensing, Proc. Inter. Symp. on Laser Radar, Tokyo,  
127 Japan, B-11, 3-13, Feb. 2018.  
128 9) 東京太郎, 大阪次郎:レーザセンシングデータの表現, 第40回レーザセンシングシンポジウム, A-1, 4-5,  
129 Feb. 2018.

130

131 付録

132 付録が必要でない場合は削除して下さい。

133

134 著者紹介

135 各著者について300字以内で紹介文を記述して下さい。筆頭著者は必須としますが、共著者は任意としま  
136 す。著者写真については、筆頭・共著共に任意とします。

137

(テンプレート例)

138